

# 放課後等デイサービス支援員の実践力向上研修（基礎基本編）

## ～ 行動問題への対応 ～

Happinesskids R5.7.13



右のQRコードから  
左のページの表示を  
お願いします。



サンクスシェア  
代表社員 田中 聡



# 行動問題とは・・・



だれにとっての問題なのか？

## 行動問題の内容例

- ・ 攻撃行動
- ・ 非難行動
- ・ 自傷行動
- ・ 多動行動
- ・ 過活動
- ・ 反社会行動
- ・ 孤立
- ・ 注意欠如行動
- ・ 不適切なコミュニケーション行動
- ・ 不安定感情コントロール行動 など

# 目的・機能からみた行動問題

【自他の心身の健康を脅かす行動】

【社会適応を阻害する行動】

## 【問題行動の裏にある心理 5段階】 アドラー心理学

- ① 賞賛の要求 「私をほめてほしい」
- ② 注目喚起 「私に注目して」
- ③ 権力をにぎる 「私は正しい」
- ④ 復讐をする 「いっそ憎んでくれ」
- ⑤ 失望させる 「自分は何もできない人間だ」

**Point① 行動問題が起きる理由の理解**

行動の機能 氷山モデル 行動の原理 要因の分析・記録

**Point② 行動問題が起きた際の対処**

行動問題への対応サイクル 環境の調整 (防ぐ①)

**Point③ 行動問題を防ぐ方策 (防ぐ②-1 ②-2)**

バイパスモデル 望ましい行動5つのサイクル戦略

# Point①

## 行動問題が起きる理由の理解



**起きる行動には原理原則があります！**

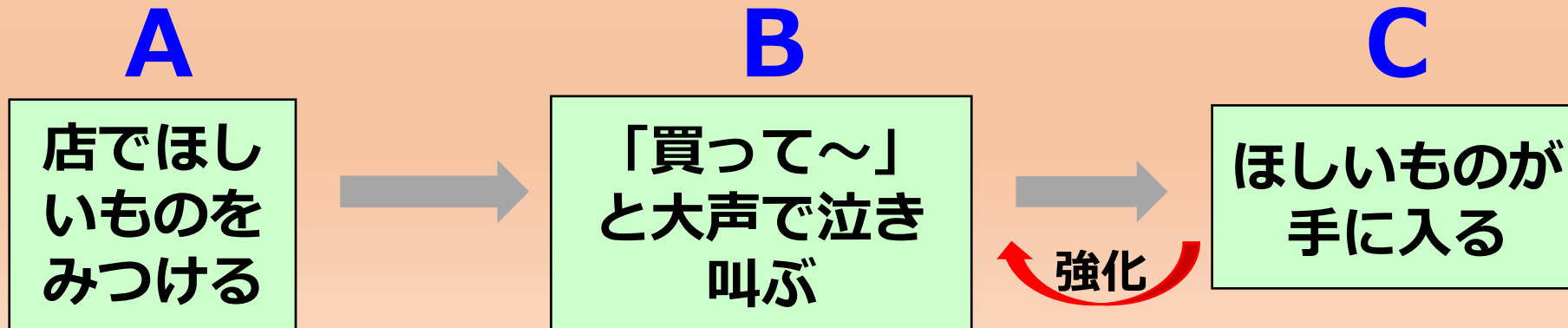
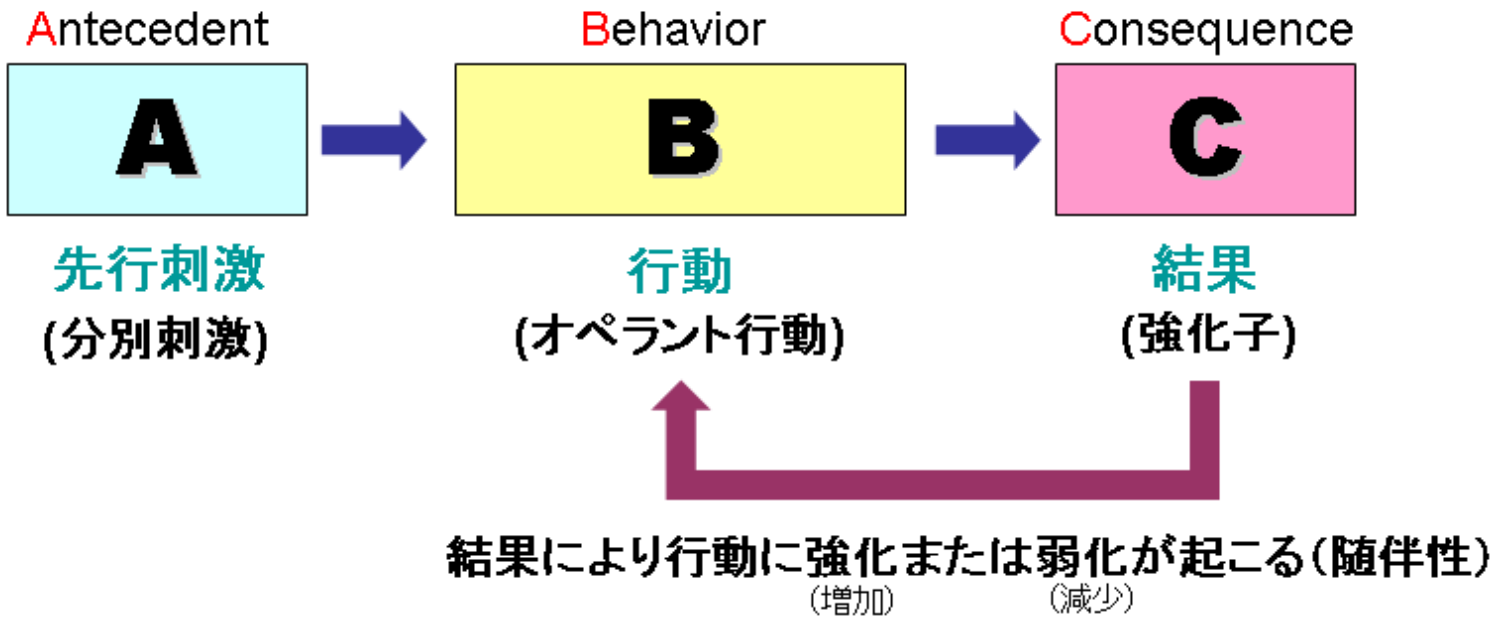
## 行動問題の4つの機能

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

- ◆ 要求・要望・目的がある ⇒ 行動（含不適切） OK！
- ◆ 無意識レベル ⇒ 行動 対応困難！

# 行動問題がおきるからくり

## 三項随伴性(ABC分析)



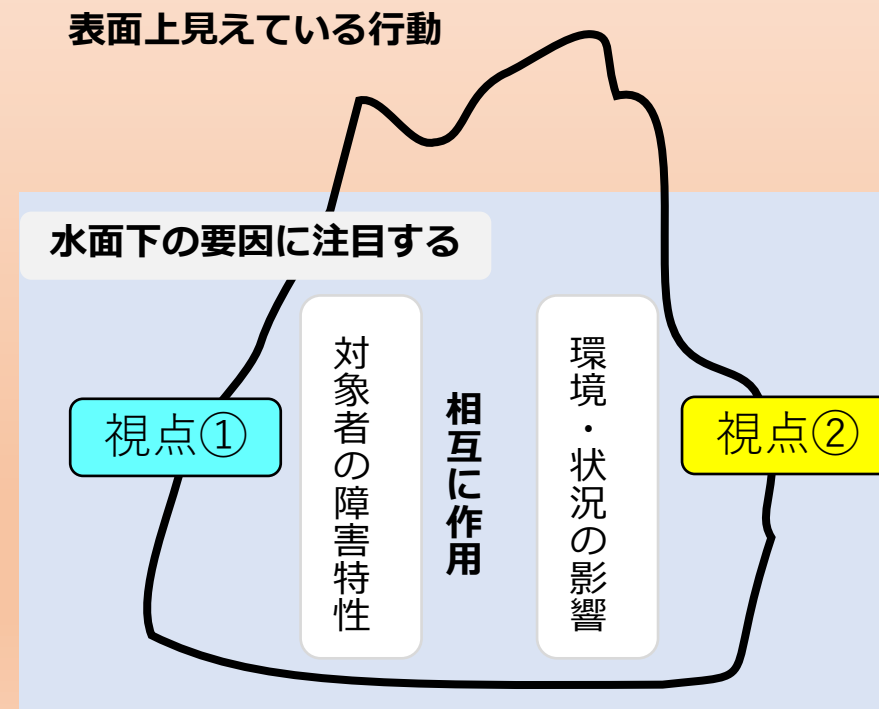


# 行動問題を理解する2つの視点

## 背景の障害特性を推測する | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）を推測し、リストアップする。その際、行動の生起要因のきっかけとなっている環境（本人に影響を及ぼす物、事、人）要因にも留意する。

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考える。



## 【障がい特性】

### 【障害種別】

- ・ 身体障害（視覚障がい）
- ・ 身体障害（肢体不自由）
- ・ 身体障害（聴覚障がい）
- ・ 知的障害
- ・ 発達障害  
自閉症スペクトラム（アスペルガー障害など）  
注意欠如・多動性障害 学習障害など
- ・ 精神障害
- ・ 難病（脊髄小脳変性症） など

【成育歴】

【病歴】

【学力】

【検査結果】

【家庭環境】

【興味関心】

【得意不得意】

【エピソード】

## 冰山モデルを用いた 支援の考え方 (自閉症の子どもの例)

- おやつの時間になると、走って部屋の隅にかくれる  
(直前の活動までは全く問題なく参加できる)
- 声かけするが、かたくなに動こうとせず激しく抵抗する  
(他害のリスク有り)

### 水面下の要因に注目する

#### 障害特性：

- ・ 先の見通しをもちにくい
- ・ 苦手な人意識が強い
- ・ 強いこだわりがある

#### 環境要因：

- ・ 今日は何のおやつか知らされていない
- ・ 手洗い場に人が並んでいる
- ・ 食べる部屋がころころ変わっている

#### 【その他】

- ・ おやつの内容
- ・ 容器
- ・ 食べる場所
- ・ 手洗い場
- ・ おやつ後の活動
- ・ 体調
- ・ 空腹度 など

# 「わかる」から「できる」へ Point①

## 行動問題が起きる理由の理解

- どの行動が問題なのか、「問題の行動」を特定できる
- 行動問題が起きた理由として、行動の機能が推測できる
- 行動問題が起きた理由として、障がい特性が説明できる
- 行動問題が起きた理由として、環境要因の説明ができる

## Point②

# 行動問題が起きた際の対処



**人に頼る選択肢を選ばないようにします！**

# 行動問題に対処するサイクル

## ① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

## ② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）

【理由・要因が  
明白な場合】



## ③ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

---

## ① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

## ② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

【理由・要因が  
不明確な場合】

# ① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める (理由・要因が明白)

- ア 安全の確保
  - ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう安全を確保する (自傷の軽減 他児の移動など)
- イ 刺激の除去
  - ・ いやになっている刺激を取り去る (視覚 聴覚 触覚 におい など)
- ウ 刺激の制御
  - ・ 現状以上の刺激を与えない (クールダウンスペース クールダウン部屋)
- エ 受け入れ
  - ・ まずは気持ちのすべてを受け止める
- オ 切り替え
  - ・ 本人が興味ある話題や物を使って気持ちを切り替える
- カ 見守る
  - ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ

## ② 落ち着いたたらトラブル処理をする

(理由・要因が明白)

- ア 聞き取り
  - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
  - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
  - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
  - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
  - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む）
  - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
  - ・ 今後のふるまい方の約束をする
  - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する



### ③ 約束に沿った対応をする

(理由・要因が明白)

#### 才 今後の方針確認

- ・ 今後のふるまい方の約束をする
- ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

- ・ 目標や取り組みの内容と方法を「ルール化」する。

Point ① ルール化は、可能な限り『子ども自らが決める方向で』

Point ② 決して『押し付けにならないように』

Point ③ 取り組みの評価は、随時、定期的に！

Point ④ 取り組みの成果には、必ず評価（＝賞賛・報酬）を！

# 「わかる」から「できる」へ Point②

## 行動問題が起きた際の対処 (理由・要因が明確)

- 行動問題の原因となる刺激を除去できる
- 起きた際、決して現状以上に事態を悪化させない
- 起きた際、できる限り短い時間で事態を沈静化できる
- 子どもと、今後のためにの約束・ルールを決めることができる

# ① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)

## 記録様式の例

### 【記録を録る】

さとる さんの行動記録

- 他の利用者につかみかかる・・・●
- 危険を感じた・未然に防いだ・・・○
- その他の攻撃等・・・×

活動	10/13 (月)	10/14 (火)	10/15 (水)	10/16 (木)
来所・準備	●	○	×	
宿題の時間				
休憩の時間	● ● ×		○ ○	
集団の活動		× ×		
昼食・昼休み	○		● ○	● ○
散歩				
自立課題		●		
帰り	○ ×			● ○

# ① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)

## ■チェックする行動・・・『他の利用者につかみかかる』

- ・ 起きた時刻：
- ・ 落ち着くまでにかかった時間：
- ・ 前兆（低い唸り声、体を前後に揺する等）：

日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16
1	月	9:40			12:10				
2	火						14:30		
3	水		10:30				14:40		

# ① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)

## 【記録を録る】

\_\_月\_\_日の\_\_さとる\_\_さんの行動記録

起きた場面・状況	起きた行動	行動の後に起きたこと
<ul style="list-style-type: none"><li>9:50頃、活動に向かう途中</li><li>〇〇さんが大声を出しながら部屋内を行ったり来たりしていた</li><li>気にするさとるさんにA職員が制止して別の部屋に促した</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>〇〇さんを気にして近づこうとした</li><li>職員に制止されると興奮が高まり壁を蹴った</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>A職員の誘導で別の部屋に移動し、作業に取り組むことができた</li><li>作業をしているうちに興奮は治まった</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>13:00過ぎ、散歩前のトイレ</li><li>入れ違いに〇〇さんがトイレから出てきた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>突然、〇〇さんに頭突きをした</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>B職員が制止</li><li>静養室に誘導され、落ち着くまで一人で過ごした(約30分)</li></ul>

### ※関連しそうなその他の情報

- ・前日の夜は寝付きが悪く、睡眠時間が4時間程度。
- ・最近、睡眠が乱れているとの母からの情報あり。

## 【変化を把握するための記録】

1. 問題となっている行動に着目する

例) 頻度、強度、持続時間

2. 記録する時間帯や場面等を決める

例) 1日を通して、時間の区切りごとに、場面ごとに

3. 継続できるように工夫する

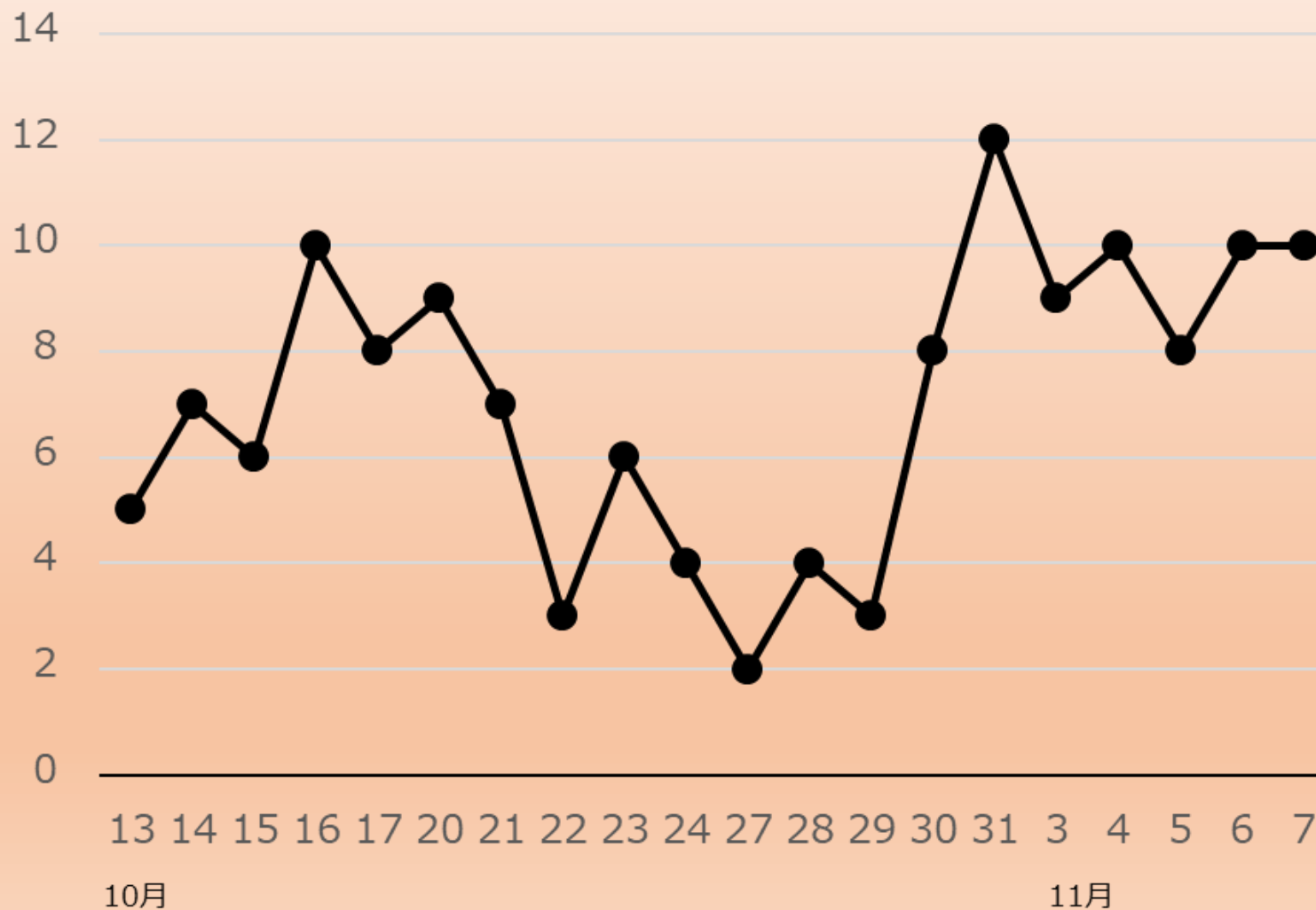
例) 既にあるものを活用する、置く場所、期限を設ける

## 【期間を決めて変化をまとめる】

■ひとめでわかるように整理する

例) 折れ線グラフ、一覧表

## ■他の利用者をつかみかかった回数



## ① 起きた行動問題の分析

## ② 原因を考える

(理由・要因が不明)

### 【関連しそうな情報を集める】

#### ■障害特性やスキルをもう一度調べる

例) 苦手なこと、得意なこと、できること、できないこと

#### ■生活全体の状況を確認する

例) 家庭・家庭の状況、生活のパターン

#### ■生理・医学的な情報を収集する

例) 睡眠、病気、服薬、周期的な変化

### 【できているとき・できていないときの環境を詳しく見る】

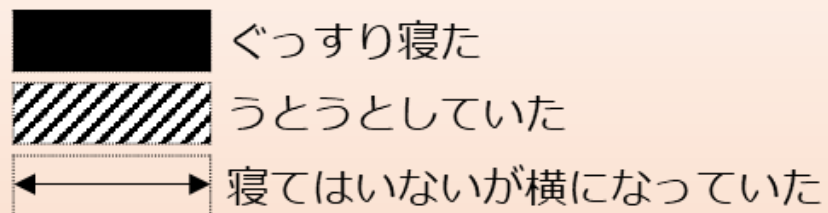
#### ■問題が生じた前後の状況を整理する

例) 機能的アセスメント (機能分析、ABC分析)



# ① 起きた行動問題の分析

(理由・要因が不明)



日	曜日	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
1	土	ぐっすり寝た							←→					ぐっすり寝た
2	日	ぐっすり寝た					ぐっすり寝た		うとうとしていた	←→				
3	月	ぐっすり寝た				うとうとしていた	←→ 通所					ぐっすり寝た		
4	火	ぐっすり寝た					←→ 通所					ぐっすり寝た		
5	水	ぐっすり寝た					←→ 通所					ぐっすり寝た		
6	木	ぐっすり寝た			うとうとしていた	ぐっすり寝た	←→ 通所			うとうとしていた	←→	うとうとしていた		
7	金													
8	土													

# Web記録の入力フォーム例

(理由・要因が不明)

行動問題記録フォーム(例)

スマートフォン・もしくはオンライン/パソコンでの問題行動記録フォーム例です。  
いつでも、だれでも、どこでも記録できることに、行動問題の即時対応に活用ができると考えます。

1 記入者

田中  
 松本  
 高倉  
 高橋

2 対象児

船津  
 湊  
 北古賀  
 橋原

3 日時

日付  
年/月/日 □

4 場所・場面

迎え時  
 車内  
 到着時  
 活動1の時  
 活動2の時

## 行動問題記録フォーム

- 1 記入者
- 2 対象児
- 3 日時
- 4 場所・場面
- 5 内容
- 6 詳細記述
- 7 具体的対応・改善策

# 「わかる」から「できる」へ Point②

## 行動問題が起きた際の対処 (理由・要因が不明)

- 行動問題状況の記録を継続できる
- 行動問題の原因について仮説を立てることができる

## Point③

### 行動問題を防ぐ方策（防ぐ① 防ぐ②）



防ぐにはベースの力を身につけること

# 望ましい行動を身に付けさせる

## ステップ ①

- ① 行動問題の発生を回避する支援力

状況と時期の適切な見立て



## ステップ ②

- ② 望ましい行動を身に付けさせる

# 望ましい行動を身に付けさせる

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と  
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが  
手に入る

## 【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅢ

『C』の結果を与えない

レベルⅡ

『B』の行動を変える

① 代わりに行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

防ぐ  
①

防ぐ  
②

# 行動問題を防ぐ①



直接的に行動問題を起こらなくする

## ② 行動問題が起こらない環境設定をする

## 宿題時の飛び出し！

- ① 順調に宿題（ローマ字の読み書き）を開始
- ② 「教えて～！」 Aスタッフが対応
  - ・ローマ字表を持ってくる
  - ・ホワイトボードを持ってくる
  - ・他の児童から呼ばれて、本人から離れる
- ③ 宿題を紙吹雪状にびりびりと破る
- ④ Aスタッフ、Bスタッフが制止する ➡ 施設を飛び出し！



【行動問題を起こした本人の思い・考え】

「（まわりが）うるさい」

「ローマ字が苦手、わからん！」

「写す作業もわからん！ 疲れる・・・」

「サクサク教えてほしい。ペースが合わん！」

「（先に友だちが終わったのを見て）あせった！」

「（Aスタッフが離れて）いつ帰ってくるかわからん！」

## ② 行動問題が起こらない環境設定をする（防ぐ①）

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

見える

見えない

## ② 行動問題が起こらない環境設定をする

## 宿題時の飛び出し！

	もの	ひと	こと
本人	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 落ち着いて学習できる環境として仕切りがある机を準備</li><li>・ 小文字が載っているローマ字表を準備</li><li>・ 模写サポート道具の準備（ホワイトボード、模写台など）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本人及びその場から離れる際の本人への声かけの工夫</li><li>・ 本人を待たせる際の明確な指示の工夫（時間指定など）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ できる範囲で「自立的」な行動を促す基本的姿勢をスタッフ間で共通確認する。</li></ul>
まわり	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 3人に1人以上のスタッフ配置</li><li>・ 児童を迎える事前準備の徹底</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 宿題が早く終わった子への適切な声かけの工夫</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業所へ到着後の動線誘導の再確認</li><li>・ 送迎車内での事前声かけの工夫</li><li>・ 当日の支援に関わるミーティングの充実</li></ul>

# 「わかる」から「できる」へ Point③

## 行動問題を防ぐ①

- 推測した要因について「もの」「こと」「ひと」の視点から「対策表」を作成することができる

# 行動問題を防ぐ②ー1

## 代替りの行動をつくる

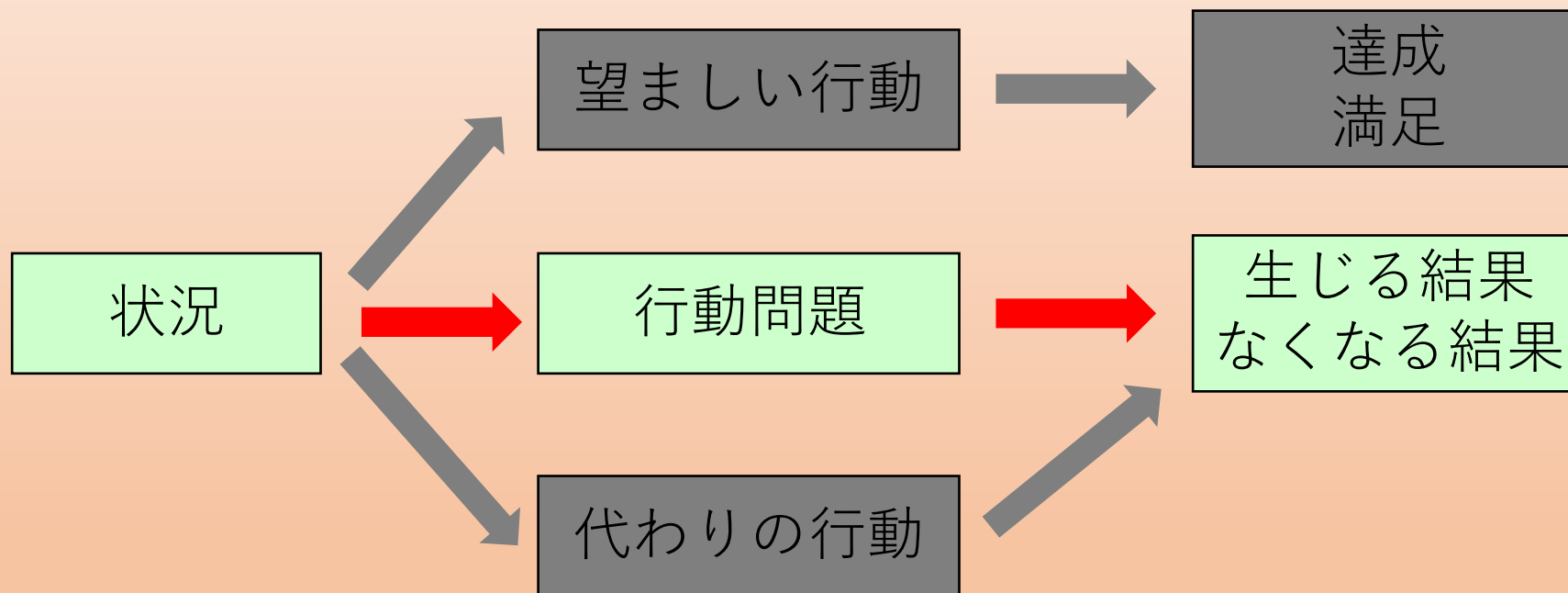


行動問題を起こさなくても済む別の行動を身につける

# 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

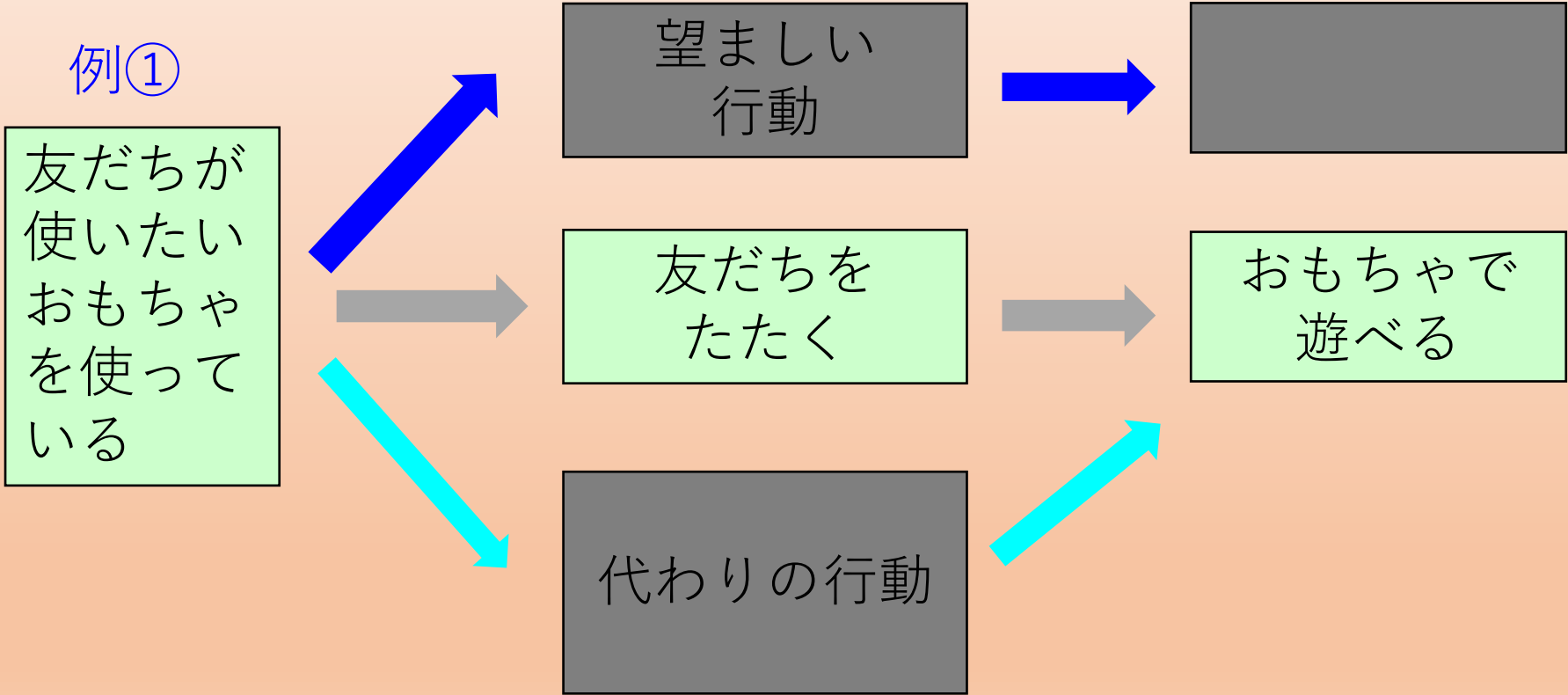
【子どもの力を高める支援を検討する】



# 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】

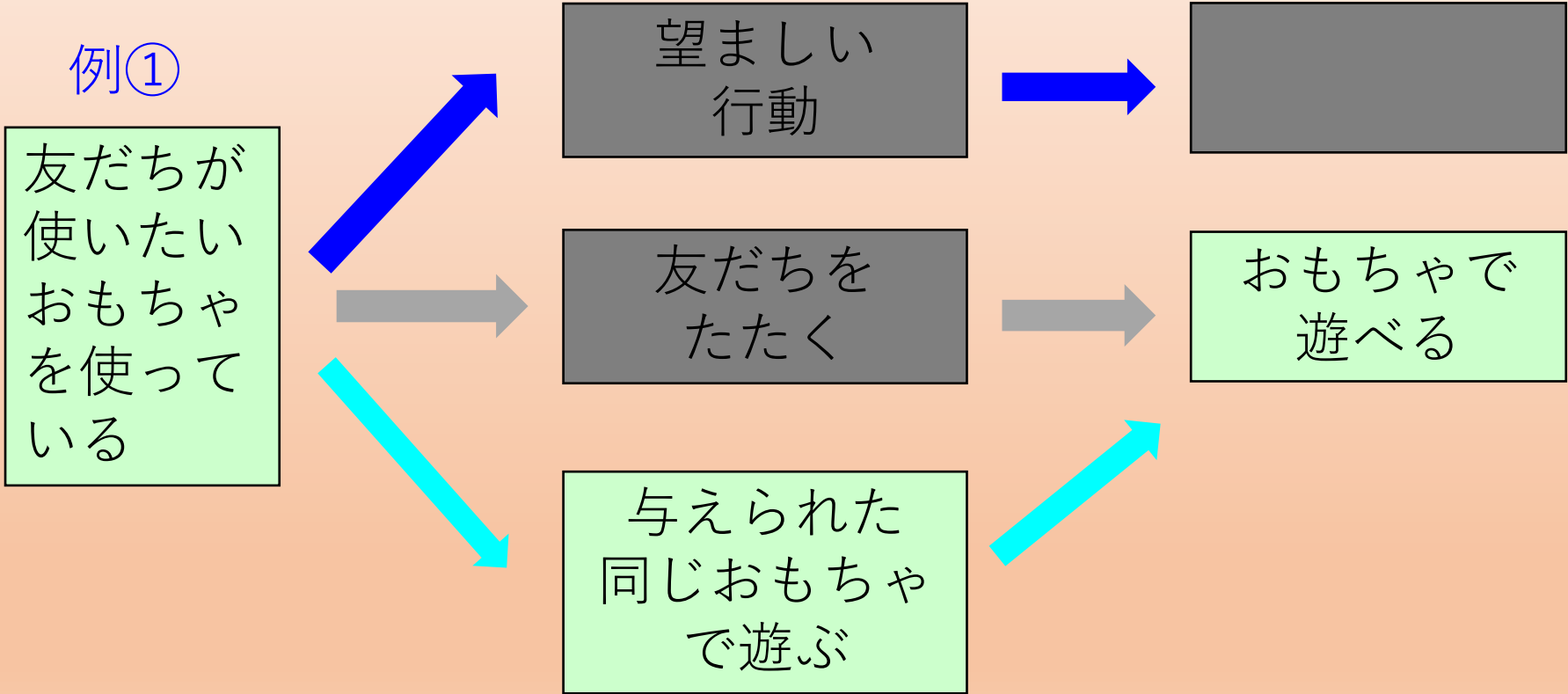


※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！  
子ども観察力&支援力養成ガイド

# 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



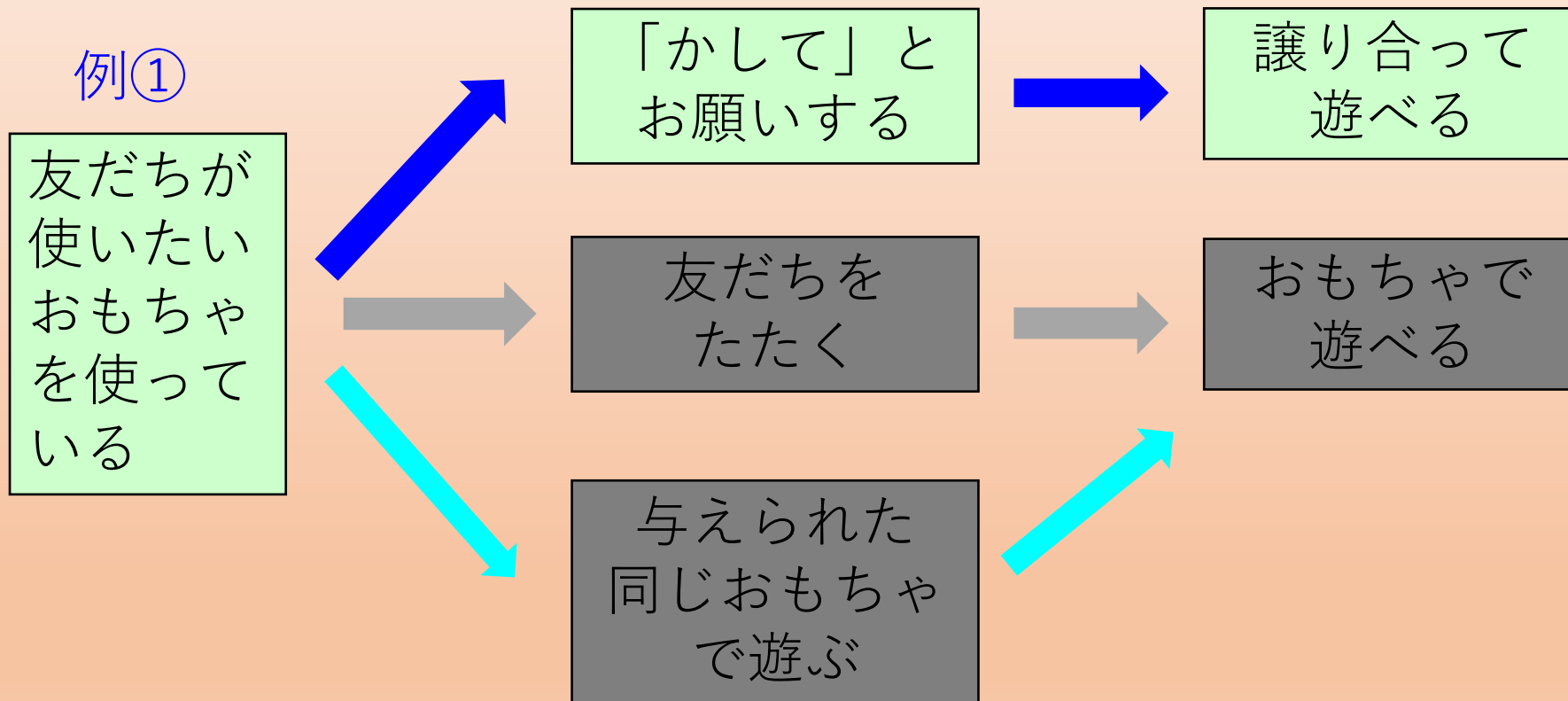
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！  
子ども観察力 & 支援力養成ガイド



# 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

行動問題を自分でコントロールする力を育てる

【子どもの力を高める支援を検討する】



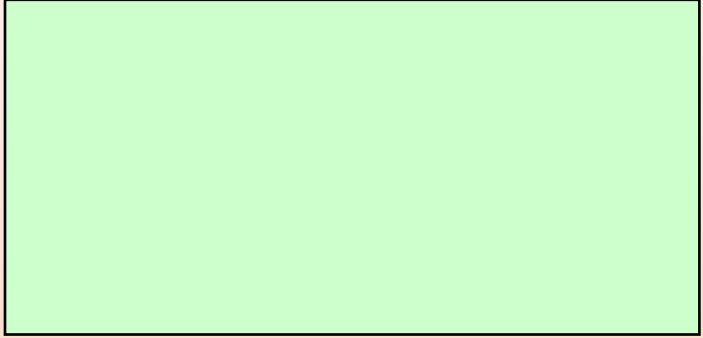
※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力&支援力養成ガイド

# 望ましい行動を身に付けさせる (ABA : バイパスモデル)

## 【演習】

望ましい行動 (目標の姿)



現状

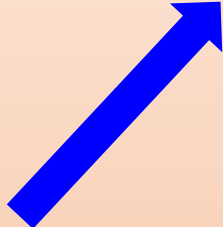
- 人の取る
- 人をたたく
- 食べ物を投げる

- 食べたいものを食べる
- 嫌いなものを食べなくて済む



満たされる結果  
は同じ

【昼食時間】  
友だちとみんな  
で一緒に長  
テーブルに並  
んで食べる



バイパス行動



# 「わかる」から「できる」へ Point③

## 行動問題を防ぐ方策（防ぐ②）

- 誤学習している行動について、「代替りの行動」を立案することができる
- 誤学習している行動について、「望ましい行動」を立案することができる

ここまでは・・・対症療法



ここからは・・・長期療育（通所支援計画）

# 行動問題を防ぐ②ー2

## 防ぐための5つのサイクル



行動問題を起こさなくても済む基礎力を身につける

# 望ましい行動を身に付ける5サイクル戦略

## サイクル① 不適切行動を減らす・なくす

- ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）

## サイクル② 望ましい行動を新たに獲得させる

- ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する

## サイクル③ 獲得した行動を維持させる

- ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する

## サイクル④ 獲得した行動を般化させる

- ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする

## サイクル⑤ 獲得した行動の自立度を高める

- ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす